



Title	前進する大阪のMSW : 日本医療社会事業協会大阪支部
Author(s)	菊地, 武明
Citation	大阪公衆衛生. 1963, 11, p. 15-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84679
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

前進する大阪のMSW

日本医療社会事業協会大阪支部

大阪では、昭和23年豊中保健所において開始されたのがはじめて、前後して済生会、日赤、天王寺病院などに取り入れられた。当時、全国的にみてもその数は僅かで、殆どどの従事者（医療ソーシャルワーカー）が、専門の教育を受けていなかったし、一般はもとより、設置機関においてすらMSWの目的、機能の何んであるかを十分理解していなかった状態にあつた。したがって、そこで働くワーカーは、先づ自分達の仕事がどんな意義と内容なのかを、取扱ケースをもとにして関係者にPRしなければならなかった。

このような状況のなかで、28年11月、ワーカーを主体とする全国組織日本医療社会事業家協会が結成されたことに刺激されて、当時、専任、兼任を併せて10名余でしかなかった大阪では、大阪医療社会事業研究会の結成によって、相互の親睦と知識技術の向上を目ざす試みがなされることになった。第1回の打合せ会に集った人々は、大阪のMSWを盛り立てるために、大いにファイトをもち協力をお願い合った。翌年5月に正式結成をみ、漸次、京都、神戸、大津などからも参加、33年1月、日本医療社会事業協会大阪支部に衣がえし、現在80余名の会員と、関係学界、機関の強力なバックアップを得るまでに成長した。現在、会員の技術面の向上を期して、月例研究会、スーパービジョン、講演会を催すほか、去る7月には、単にMSWの立場からだけでなく、今日のすぐれた医学医術と、社会情勢の変化に伴う保健、医療の在り方を正しく見極め、国民の健康と福祉の増進に応えようとの立場から、初の一般公開討論会を開くなど、MSWの実践とともに、その根底となる保健、医療の諸施策への批判を通して、積極的、建設的な構えをとろうと努力している。

菊地武明（大阪赤十字病院医療社会事業課長）